

2016年度 理事長所信

一般社団法人 沼田青年会議所
2016年度 理事長 塩野 昌彦

【はじめに】

1949年、日本の未来を憂う先人たちによって、明るい豊かな社会の実現を理想とする日本の青年会議所運動は始まりました。やがてその運動は私たちが暮らす利根沼田にも波及し、1973年に沼田青年会議所は設立されました。青年会議所の会員は必ず40歳で卒業します。その制度の中で先輩諸兄は、自らの情熱を後輩たちに伝え、後輩たちはそれを受け継ぎ、自ら育て、そして次に伝える。それが繰り返されてきたからこそ、今の沼田青年会議所があると考えます。私は2007年度に入会してから現在まで多くの先輩たちに育てられ、仲間と磨き合う中で情熱を育むことができました。入会当初を思い返せば、私は情熱のないメンバーでした。しかし、そんな私に対しても、惜しみなく時間を使い、正面から向き合い、存在価値を認め、居場所を与え、一歩踏み出せるよう背中を押し、そして自ら行動する背中を見せてくれた。そんな先輩たちが居たからこそ、私は青年会議所が大好きになり、情熱をもってJC活動を続けています。だからこそ先輩諸兄より受けたその恩に報いたい。これが私の情熱の原点です。私が青年会議所において最も大切にしたいことは、情熱をもって行動すること。先輩方にしていただいたように、自らの行動をもって情熱を伝え、設立以来脈々と受け継がれてきた地域に対する情熱を次につなげたい。それが私にできる先輩諸兄と、共に活動する仲間への恩返しであり私に課せられた使命です。

【有言実行】

より良い未来を築く為、私たちは情熱をもって運動をしています。しかし、どれだけその情熱は伝わっているのでしょうか。情熱を伝える為には言葉と行動が必要です。言葉だけでは信頼は得られず、行動だけでは理解されません。実社会においてもそれは同じで、言葉と行動が伴わなければ評価は得られません。これは当たり前の常識ですが、家族と会社に支えられ、お金と時間を使いJC活動をする私たちは、言葉と行動は勿論、その結果にもこだわることを求められていると考えます。言葉を発し結果にこだわった行動の積み重ねは、情熱を高めることは勿論、一つひとつの行動の質を高め、地域により良い結果をもたらします。その為に2016年度は「有言実行」をスローガンに結果にこだわった運動に取り組みます。会員の一人ひとりが情熱ある言葉を発し、情熱をもった行動をすることができれば、個人の大きな成長につながることは勿論、地域からの沼田青年会議所に対する信頼度も高めます。そして、そうした情熱は必ず地域に伝播し、地域の未来を創りだす大きな力になると信じています。

【情熱ある組織に】

情熱は、青年会議所に限らず全てにおいて行動する原動力となります。しかし、行動しなければ情熱は生まれず、行動し続けなければ情熱は育ちません。行動とは実践であり、その体験や経験の積み重ねが情熱を育みます。その為にメンバーそれぞれの役割と責任を明確化し、一丸となって事業に取

り組める組織運営を実施します。それとともに各委員会の思いや情報を共有する機会として、新たな手法を盛り込んだ全体委員会や理事会を効果的に活用し委員会間の連携を強め組織力の向上を図ります。同じ沼田青年会議所に所属する仲間の情熱に触れることは、自身の情熱を高める機会となります。それが組織により強い一体感と情熱を育み、より効果的な運動につながります。

【会員拡大】

青年会議所が目的とする「明るい豊かな社会」を目指す為には、ひとりでも多くの同志が必要です。しかし、青年会議所は単年度で組織が入れ替わり、40歳を迎える年で卒業します。限られた期間で会員が入れ替わる組織であるがゆえに、組織を構成するメンバーを絶え間なく拡大しなければなりません。その為には、会員候補者と真摯に向き合い私たちの情熱を伝え、ひとりでも多くの会員を拡大し組織の拡充を図ります。

私たち青年会議所メンバーが「ひと」の為に「まち」の為に活動ができるのは、同じ志を持った仲間がいるからといっても過言ではありません。この愛する地域の為に、沼田青年会議所の運動を広げる為には、一人でも多くの拡大を図ると同時に地域を担う人材として育成しなければなりません。近年多くの新入会員を迎え沼田青年会議所はこれまでにない勢いと盛り上がりを見せています。しかし、その一方で経験の浅いメンバーが半数を超え、会員の育成が急務の課題となっています。その為に情熱を伝え育むべく全委員会で育成に取り組み、組織力の向上と活性化を図り、5年先10年先を見据えた沼田青年会議所の強固な礎を作ります。

【次世代を担う若者達へ】

毎年多くの高校生が進学や就職によって新たな生活を始めています。そうした大人としての自立が始まる次世代を担う若者達に私たちが伝えられることは何でしょうか。私たち青年会議所のメンバーは、誰もが社会人、経済人、そして企業人として自立し一生懸命働きながらも青年会議所活動をしています。そんな私たちだからこそ、今の若者に伝えられることがあるはずです。

何事にも恐れず情熱をもって挑戦する。これは青年会議所に所属する私たち最大の武器であり、利根沼田の未来を見据え、未来の子ども達の為に今できることを模索し本気で行動する姿こそが、私たちが見せられる姿です。そんな姿をこれから羽ばたく若者に見せることで、情熱を持つことの大切さ素晴らしさを伝えたい。その為に次世代を担う若者たちとともに作りあげる事業を展開します。私たちと若者が一緒になって考え行動をとることで、私たちの情熱を若者の心に刻み、若者が未来を力強く担う原動力となることを目指します。

【自分たちのまちは自分たちで創る】

私が初めて委員長の日職に就いたとき、ときの理事長は言いました「自分たちのまちは自分たちで創ろう」と。これは沼田青年会議所に脈々と受け継がれてきた「まちづくり」に対する情熱です。

現在、人口急減・超高齢化という我が国が直面する大きな課題に対し、政府は「地方創生」を掲げ様々な取り組みを始め、それに伴い行政はこれまで以上に市民の声に耳を傾けようとしています。行政だけでまちづくりはできず、それは私たちも同じで市民だけでもまちづくりはできません。双方が一体となってより良い地域の未来を創ることが本当の意味での「自分たちのまちは自分たちで創る」

ことであり、それができる好機が今訪れていると感じます。本来主役であるはずの市民が、長い間まちの全てを行政や一部の人任せにしてきたことで、いつの間にか自分たちで考え決める機会をなくしてしまい、「自分たちのまちは自分たちで創る」という地域への情熱も薄れてきている今だからこそ。市民同士が自ら考え話し合い行動に移せる機会を作り、ひとりでも多くの市民が「自分たちのまちは自分たちで創る」という地域への情熱を持つが必要です。

また、沼田市・みなかみ町・片品村が消滅可能性都市として指定されるように、利根沼田地域は衰退の道を辿ろうとしています。この状況は利根沼田地域に限ったことではなく、日本全体の大きな問題であり、それを解決するべく政府は地方創生を掲げました。これから全国各地で様々な取り組みが開始される中、私たちの暮らす利根沼田が地域内外の人に選ばれる為には、利根沼田の行政は勿論、それぞれの市民もこれまで以上に連携し、より良い地域の未来に向かって共に歩みだすことが必要です。その為に、利根沼田という広域を活動エリアとする沼田青年会議所の公共性とスケールメリットを活かし、利根沼田をひとつのエリアとして捉え、市民レベルでの地域連携を推進し、利根沼田市民としての意識の醸成を図ることが重要です。

2015年度に開催した「ぬまた市民討議会」は、沼田青年会議所にとって初めて取り組みでした。その中で参加した市民の一人は「今まで沼田市について考えたこともなかった。いい機会になった。帰ったら妻や子どもと話し合ってみる」とおっしゃっていました。この言葉は、市民討議会を体験したからこそ発せられた言葉であり、地域に対する小さな情熱が生まれた瞬間だと感じました。そして、これが私たちの掘り進めるべき新たなニーズであり、自立した地域への一歩になると確信しました。自立した地域とは、行政主導ではなく「市民主導の地域」であると考えます。「市民」とは、近代西欧の「Citizen」を福沢諭吉が日本人の「社会を担う主体的な個人」としての成熟への念願と期待を込めて翻訳し生まれた言葉です。そうした市民が自ら考え話し合い地域の為に行動する。その上で行政が市民に寄り添う。そんな市民と行政が双方向になった「市民主導の地域」を目指し、利根沼田という広域的視点をもった新たな市民討議会を展開します。

【45周年に向けて】

今から44年前、この利根沼田に青年会議所の情熱は燈され、以来その情熱は移り変わる社会情勢の中でも変わらず、現在まで受け継がれ沼田青年会議所は存在しています。沼田青年会議所設立の節目となる45周年を目前に控えた44年目の今年。これまで43年間の長きに亘り情熱を受け継ぎJC運動を続けてこられた先輩諸兄と、私たちの活動にご理解とご協力いただいた地域の皆様、そして同志である群馬県内各地で情熱をもって運動を展開する11の各地青年会議所に改めて感謝し、これまでの御恩に報いることができるようにしなければなりません。その為には、これまでの歩みを振り返りながら、沼田青年会議所の歴史とその根幹にある情熱に触れ、胸をはって45周年を迎えることが必要です。それが沼田青年会議所に対する情熱と誇りとなり、未来にむけて50年60年と続く組織の礎となるのです。

【LOMスローガン】

有言実行

あふれる情熱で地域（まち）の未来を創りだそう

【基本方針】

- ・情熱を育み伝える組織運営
- ・情熱を持った会員拡大
- ・全委員会による情熱を育む会員育成事業の実施
- ・情熱を燈す青少年育成事業の実施
- ・市民の地域への情熱を育むまちづくり事業の実施
- ・45周年に向けた取り組み

【結びに】

私たち青年会議所メンバーが時間を絞り出しJ C活動をする理由はなんでしょうか。時間やお金を持て余しているメンバーは一人もおらず、歯を食いしばりながら1年1年を積み重ねているのは、自らが成長しその成長を家庭や会社、そして地域に生かせると信じているからこそ頑張るのだと思います。私は、自分にそんな思いを抱かせてくれた青年会議所という組織への感謝とその御恩に報いる為、2016年度の理事長となる決意を致しました。沼田青年会議所第44代理事長としての責任を自覚し、使命感をもって職務を精一杯務めます。これまで先輩諸兄が築き上げてこられた歴史と伝統を守りつつ、仲間の為、家族の為、会社の為、地域の為、そして将来の子供たちの為に少しでもこの地域が明るい豊かな社会となるよう、誰よりも情熱をもって1年間邁進することを誓い理事長所信と致します。

まずは青年会議所を一緒に楽しみましょう。青年会議所の本当の楽しさを知り、まちの未来を真剣に考え行動することで、自らの成長を促し、切磋琢磨できる仲間と共に汗と涙を流して40歳までの時間を思いっきり駆け抜けて行きましょう。